



## 新庁舎建設等について町会長と市長が懇談!!

～地域の代表として意見交換を行う～

8月22日城北地区公民館ホールにおいて犬伏・堀米・旗川・吾妻・赤見地区の町会長46名、11月22日中央公民館会議室において佐野・植野・界地区の町会長41名が岡部市長との懇談会を行いました。

地域の代表として、市民生活における様々な問題や不安について2回催併せて16の議題が話し合われました。



### 新庁舎建設について

Q (複数の町会長より)新庁舎建設の件については、十分に時間を掛けてプロセスを踏み市民のための建築物を作ってほしい。歴史や文化、環境への配慮、災害時の市民の安全確保など全市区域を対象に考慮してほしい。

A 新庁舎建設については、平成23年度に業者選定、平成24年度に基本設計と実施設計、平成25年度から26年度にかけて工事を行う計画です。基本設計を行う際には、市民の皆さんのご意見をお伺いします。建設場所については、都市計画法や農振法等の法令による制限、都市計画マスタープランなどの土地利用計画との整合性を図ることを考慮し、現本庁舎敷地に建てるのが最善と考えます。

### 県道桐生岩舟線の整備について

Q 県道桐生岩舟線は昔より佐野の中心道路でした。電線の地中化等の道路整備を実施して、活性化へと繋げてほしい。

A 「佐野市中心市街地活性化計画」において県道桐生岩舟線を東西軸に、市道1級1号線を南北軸としてまちなかのシンボル軸としています。地元や地権者の方々の意向を把握し、県との協働体制の下、整備を推進していきたいと考えております。

### 広報紙の月刊化について

Q 市の広報の発行回数について、県内では宇都宮市や足利市などが十分な検討の結果、月1回の発行としていると思われます。佐野市においてもぜひ検討をお願いしたい。

A 広報の発行回数につき

ましては、平成22年度から事務事業改革改善プロジェクトにより市内部及び外部評価者会議等で話し合いを行いました。

今後の作業として、市民の皆様様の意向を確認しながら、より良い情報の提供とそその方法について検討してまいります。



### 犬の飼い主マナーについて

Q 犬の飼い主マナー向上に関しては町会だけでは対処できないため、ぜひ条例化をして状況改善に取り組んでほしい。

A 犬の糞や鳴き声などの問題は、まず飼い主の方がマナーやモラルを守ることが何より大切なことです。しかし、啓発活動では改善されない場合もありますので、既存の環境に関する条例に犬猫の糞害防止を加えた条例整備を進めてまいります。

# 地域の防災について考える



新潟県旧山古志村を視察

福島県郡山市で開催された全国自治会連合会郡山大会へ参加

## 新潟県旧山古志村を視察

新潟県中越地震 震度7

7月11日、町会長97名が参加し、新潟県旧山古志村（現長岡市）を視察しました。

旧山古志村は、平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震により大きな被害を受けた地域です。

公共施設をはじめ全ての建物が何らかの被害を受け、住人の8割以上が仮設住宅に入居、まちを象徴する錦鯉や闘牛の死亡も相当数に上りました。地域に通じる道路は全て寸断され、全村が村内に取り残され、自衛隊のヘリコプターによる避難作業が行われました。また土砂崩れにより河道閉塞が発生し、複数の集落で大規模な浸水被害が発生、ポンプによる排水や民家の撤去などの措置が取られました。



7年経過して

私たちが訪れた震災から約7年後の旧山古志村は、その影響を感じられないほど復興していました。川がせき止められたため水没した木籠集落は、地震の凄さを後世に残すことを目的に現在もその姿のままの状態で見守られていました（写真）。今では主要産業の錦鯉の養殖も再生され、国指定重要無形民俗文化財「山古志の牛の角突き（闘牛）」も年12回開催されるようになりました。

全員で困難を乗り切る

地震の際町役場で執務されていた職員の方々に話を伺うことができました。「高齢者や子どもたちはどのように助け出したのでしょうか」という問いに、「災害などの緊急時には思うように既存の計画が機能しないので、全員で助け合おうとしない。ただし、山古志の場合は、この家に高齢者がいて寝たきりの方がいるのか大勢の人が知って

いた」との答えが心に残りました。また、仮設住宅においても町内会が自然発生的に組織され、皆さんに選ばれた町内会長がその後の復興やまちの再建に大活躍されたとのことで、私たちも勇気づけられました。

## 全国自治会連合会 郡山大会に参加

全国から福島へ

全国自治会連合会の福島県郡山大会が10月13日開催されました。全国から集まる自治会・町会に携わる方々との交流と福島県の復興応援を目的としたこの大会に賛同し、役員27名で参加してきました。

東北自動車道は北に進むにつれ所々道路が隆起しており、完全復旧までの時間を考えさせられました。走行する車両の多さに安堵を覚えました。途中立ち寄った郡山市内のドライブインの従業員の方が「福島が避けられているのでは」とつい考え



てしまつ。早く皆さんが日帰りで1泊でも気軽に観光に来てくれる状況になってほしい」と言う姿が印象的でした。

大会には全国より約1000人の自治会・町会関係者が集まりました。会場では東日本大震災「ふくしまの記録」と題したパネル展が開催され、震災から復旧復興までの半年間の福島県の軌跡が紹介されました。

「isovai」

福島県佐藤知事のあいさつに始まった大会は、内閣総理大臣のメッセージや郡山市柳橋地区の歌舞伎保存会実践報告と中学生による白波五人男、東京農業大学小泉武夫名誉教授の食の安全に関する講演会など災害時の対応や、自治会の重要性を訴える内容が色濃く反映されていました。最後に安積黎明高校合唱団と「ふるさと」を全員で合唱し、参加した一人ひとりが思いを胸にした1日となりました。





永年在職の町会長・町会役員の方々が  
表彰を受けられました

1月12日佐野市町会長新春祝賀会（佐野市文化会館）、1月27日栃木県自治会連合会会長研修大会（小山市文化センター）において、長年にわたる町会活動や地域の社会福祉向上に貢献された方々が表彰を受けられました。（敬称略）

- 【佐野市町会長連合会永年在職町会長20年表彰】  
川田文次 亀井町
- 【栃木県自治会連合会自治振興功労者表彰】  
【佐野市町会長連合会永年在職町会長10年表彰】  
石田清純 伊賀町  
川島 功 大祝町  
青木茂伸 越名町



20年表彰の川田文次町会長

【佐野市町会長連合会永年在職町会長5年表彰】

- 長谷川博 飯田町
- 竹澤 宏 堀米町（菊川）
- 小寺和夫 石塚町（緑）
- 倉持 勇 原町
- 清水季則 吉水
- 中田金吾 新吉水町南
- 奥澤詔司 新吉水町北
- 知久一男 富士見町
- 【佐野市町会長連合会永年在職町会役員表彰】  
岩崎 誠 大町  
船渡川治太郎 大町  
飯塚満昭 大祝町  
島藤和弘 大祝町  
手塚昌司 植上町  
木村克二 若宮上町  
永澤一男 富岡町（南部）  
前原 章 堀米町（安良町上）

平成23年度 佐野市町会長連合会  
事業経過と予定

5/13	第1回理事会
5/19	東日本大震災義援金贈呈式
5/20	通常総会
5/29	全市一斉清掃
6/13	第2回理事会
6/24	栃木県自治会連合会総会
7/11	管外視察研修会
8/15	町会長だより「からさわ」第6号発行
8/19	臨時理事会
8/22	第1回市長との懇談会
10/5	第3回理事会
10/13	全国自治会連合会郡山大会
11/10	栃木県自治会連合会研修会
11/22	第2回市長との懇談会
12/15	第4回理事会
1/12	新春祝賀会（永年町会長・町会役員表彰）
1/27	栃木県自治会連合会会長研修大会
2/15	町会長だより「からさわ」第7号発行
2/17	栃木県自治会連合会県南ブロック会議
3月	第5回理事会

ちよっと息 佐野坂東三十三ヶ所所巡り  
十八番救世山東明庵（吉水町）

巡礼歌  
世を救う大悲の滋眼浅からぬ  
仏のちかいふかき吉水

日本人は昔より旅好きだそうですね。万葉集や古今集をみても旅についての歌が非常に多いとのこと。現在ちよっとした巡礼ブームですが、それも何かを求めたいと思う気持ちと、旅好きな国民性がぴったりと合っているからだとされています。

観音様は観音経のなかで、三十三身に姿を変えて人々を救うとされています。



場所：佐野市吉水町925  
参考：「佐野市史 民俗編」「田沼町史 自然・民俗編」

この数字にあやかっただのが観音三十三ヶ所巡りです。佐野坂東三十三ヶ所は、救世山東明庵を開山した（元禄四年1691年）本源雲谷が、坂東三十三ヶ所の霊場になぞらえ、同一年に作ったものと言われている。



**町会は地域において様々な役割を担っています！**

町会は住民の皆さんと共に災害時の対応、隣近所との絆づくり、いざという時の相互扶助など地域のために様々な活動を行っている団体です。町会活動に対してより深いご理解をいただき、積極的に参加してください。

- 安全・安心な暮らしを守る活動 町会では子どもたちの安全を守るための自主防犯パトロールや自主防災の組織をつくっています。また、防犯灯の維持管理や交通安全活動も町会が行っています。
- 親睦交流活動 円滑な地域社会を進めるうえで、地域の人々が交流することは非常に重要です。町会では、お祭りや子ども会、敬老会への協力をとおして子どもから高齢者までの暮らしを後押ししています。
- 環境美化活動 地域で快適に暮らせるよう、清掃活動をとおしての環境美化活動を行っています。ごみ集積所の管理運営も町会が行っています。
- 地域情報活動 地域の事業案内や市役所・学校・警察などからの情報を回覧板や広報の配布を通して、生活に必要な情報を提供しています。災害時などの緊急時においても有効的な手段であると言われています。



堀米町(菊川)町会  
「菊沢川の清流とコウホネを守る会」  
とちぎの環境美化県民運動  
功労団体表彰を受賞

12月3日「地球と人にやさしい」エコとちぎ「ぐくり」とちぎ環境県民大会」において、堀米町(菊川)町会の「菊沢川の清流とコウホネを守る会」が、とちぎの環境美化県民運動功労団体表彰を受賞しました。

同賞は、環境意識の更なる高揚と環境美化活動を通しての地域の交流や協力を深め、とちぎの人間力の形成を目的に、環境美化活動に顕著な団体の功績を称えています。

同町会は、水質汚染が進みつつあった菊沢川を定期的な清掃活動で清流へと蘇らせました。平成19年にナガレコウホネ(絶滅危惧種)が確認されると直ぐに有志による「菊沢川の清流とコウホネを守る会」を結成。コウホネの数は現在5〜10倍に増えているそうです。

日本一の群生地になることを目標に活動を続けています。



6町会  
合同で

# 唐沢山の むかで〈ごみ〉を退治!



12月4日、唐沢山周辺6町会(栃本上・栃本下・富士町(上)・富士町(下)・奈良淵町・田之入町)が中心となり、藤原秀郷公のムカデ退治になぞらえ「唐沢山城跡ムカデ(ごみ)退治」と題したごみ拾いを実施しました。

唐沢山は現在国指定史跡化を進めています。本紙のタイトルでもあり、ハイキングやドライブに多くの観光客が来る風光明媚な山ですが、ごみの対策には地元の方々も悩まされてきました。そこで、周辺6町会がタッグを組み地域の環境は地域で守ることを決意し、地元が誇る文化・史跡となるために行動を起こしました。

当日は、町会をはじめ老人会や田沼高校の生徒、地域内の施設の職員さん、地元企業の協力もあり約300名が参加しました。3つの山道に分かれ

て山頂を目指し、斜面のごみを苦勞して拾い上げる姿も見られました。ごみの中には家庭から出されるベッドやタンスまであり、マナーの向上や不法投棄の抑止に今後より一層取り組まなければならないと決意を新たにされたようです。

集められたごみは燃えるごみが約1トン、燃えないごみと粗大ごみが約4トンにも上りました。町会長さんからは「集まってくれた皆さんのおかげで山が綺麗になりました。ただ、思っていたよりごみが多く残念に思っています。訪れる方々には、ふるさとの山を敬う心を持ってほしい」と話していました。

この活動は、今後も実施されるということですので、ぜひ多くの皆さんの参加をお願いいたします。

## 編集後記

◆皆さまにおかれましては、健康やかな年を迎えられたこととお喜び申し上げます。今年度は「会報からさわ」を第6号、第7号と発行することができました。発行にあたり各町会長の皆さまの積極的な原稿作成、身近な交流活動の投稿、関係された方々のご協力で感謝申し上げます。

◆昨年の東日本大震災により私たちの安心安全な暮らしについての考えが大きく変わりました。町会長連合会では、これを機に研修視察などをおして、地域防災の在り方を見直すこと、そして住民の皆様ともう一度我が身を守ることにについて共有する必要があると考えております。

◆今号で唐沢山周辺の6町会による取組みを紹介いたしました。エリアを越えた共同事業は、他の地域にとって好例となったと思います。今後このような事業の広がりに期待が持てます。

発行者 佐野市町会長連合会

TEL: 0280-1

栃木県佐野市壺井町2658-1

N T T 東日本佐野ビル

佐野市役所行政経営課内

0280-0201203-0005

発行責任者 篠崎芳明

編集委員長 安藤 弘

編集委員 石田清純 三井 健

上岡良雄 清水季則

飯田明生

佐野市町会長連合会は全域167町会で組織されています。